風ノ色

雛-hina-

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風ノ色

【Nコード】

N3911BA

【作者名】

雛 - h i n a -

【あらすじ】

風……。

それは空気の流れのこと、あるいは流れる空気自体のことを示す。どこから吹いて来てどこを目指し、そしてまたそこに帰って来るかも定かではないもの……。

科学的な見解をしてみればそんなことも言えないのだろうか…。

さて、余談はさておき……。

そんな風に色があるとしたら貴方はどう思う？

その色はその場の環境によって大きく移り変わる。

例えば、その場にいる人間や周囲の状況、感情なんかで簡単に変わってしまう。

この物語はそんなふうに変わりゆく日常と非日常が繰り返される物語である……………。

言いたいことが分からない？

まあ例えるなら…日常生活してたらいきなりバトルしたりシリアスになったり、ギャグ要素を交えたりと風ノ色みたいに一定に保たれない多目的ジャンルな物語ということである……………。

つまりは……………

”ジャンルなんてなかった!!!”

【序章】 N・F・B・H・S・S・G・K・M (前書き)

N・F・B・H・S・S・G・K・M 役：「日常を描きながらも
ファンタジーやバトルやホラーやSFやシリアスやギャグが入って
くる可能性があるかないかと言われればある物語」

【序章】 N・F・B・H・S・S・G・K・M

「?????」

全ての始まりはあの日……………。

あいつが我が家にやって来てから全てが変わった……………という訳でもないのだが…まあ、変わっている。

その変わったこと以外では普通に日常を送っているからな…。

寧ろ、非日常なんて言えることもたまにしか起きないのだ。

まあ、今の段階で言えるのはこんなことくらいだろう。

何しろあいつが来てまだ一週間が経ったばかりだからな……………。

これから変わるかもしれないし変わらないかもしれない。

正直俺には関係ない話した。

これ以上の説明は面倒なのでこれまでだ。

ここまで説明してやっただけありがたく思え。

【序章】 N・F・B・H・S・S・G・K・M（後書き）

【次回予告】

雛「まずは序章から全て始まるのは言うまでもないですよね。

さてはて、私の思っているような物語が描けるかどうか分かりませ
んが、

長い目で見てやってくださいませ。

では、ではノシ」

????「ではでは……じゃないだろうが。

作者が出てなぜ俺達がでない？」

雛「え？だって君たち物語にすら出てないし。

次で紹介するから焦らず騒がずに茶でも飲んでてよ。」

????「……………茶菓子も付ける。」

雛「そう来たか……。

後で買い出し行くから待っててね（汗）

では、で今度こそノシ」

夢は寝てみた方がいいよ？（前書き）

そんな訳でして、まずは紹介からですな。

夢は寝てみた方がいいよ？

西暦2012年6月 日

日本国内某所

- ??? ? 視点 -

縁側。

日本の和風家屋に独特の構造で、家の建物の縁部分に張り出して設けられた板敷き状の通路である。庭等外部から直接屋内に上がる用途ももつ。欧風建築では、ベランダ、ポーチといったものが意匠的には似通っている。障子が、薄明かりの中でその向こうの人や風景を見えるような見えないような曖昧さの中に感じる事が出来るのと同じように、内でもなければ外でもないという縁側に、空間を仕切る意識が希薄な日本家屋空間独特の曖昧さの構造を見るという文化論も語られる。(wiki参照)

いきなり縁側の説明で失礼。

まあ、その縁側に青年が一人座っているのだ。整った容姿に長身。背中の中央まである綺麗な黒髪は髪紐で結っており、ファッション誌にも良く出ているようなまさに美男子と呼ぶにふさわしいのではないだろうか？

しかし、今どきの青年には珍しく、彼は甚平姿に左手には団扇という何とも縁側にはぴったりではあるが似つかわしくない格好でくつろいでいた。

彼の名は秋月信彦。

どこかで聞き覚えがあるのでは？と考えた方は多分それで合ってます。

捻りなどなく寧ろそれです。

さて話しが脱線しそうなので一度戻して、彼はどこにでもいる22歳の青年です。

職業は自宅警備員。要するに無職。

何を考えているかよく解りません。

「当然だ、俺の考えは到底凡人に理解できる物ではないからな。

何しろ俺は、天の道をY(はいストップ!!!)

それ貴方の名前に掠りもしていないんだから言っではいけません！
！！

「……………天からの声に邪魔されてしまった。まあ、仕方ないな。

作者も結局は凡人という訳か……………」

ああ……………なんていうかこんな子です。

ちなみに無職ではありませんが彼には年に数回大きな収入源がありますが、
すが、

まあそれは後々のお話としましょう。

「信彦。あまり作者を困らせないの。」

私（作者）と彼だけで話をしていただけでは読者が暇なのでここで
もうお一方加えるために来ていただきました。

呆れ顔で信彦に説教をしながら現れた女性。

彼女の名は秋月撫子。^{あきつきなでしこ}

こちらも信彦と同じように一言で言えば美女。

容姿も整っており信彦よりやや短い髪は結ばずにいる為動く度にその振動に合わせて揺れている。

ちなみにスタイルも良くスリーサイズは上か」「社会的に蒸発したいなら続けて下さい。」

・・・すびばせんでじた（滝汗）。

追記：彼女は怒ったら怖い。

服装はお洒落というよりも快適さを重視しているのか黒のタンクトップに薄黄色のショートパンツと本当にラフな格好である。ちなみに彼女は24歳で職業はジャーナリストではあるが、フリーランサーと呼ばれる部類で特定の会社に属しているのではなく、提供時に契約を結ぶと言った感じである。

「紹介も終わったところで、どうした姉さま^{あね}？

ようやく俺の気持ちに答えてくれるのか？」

「夢は寝てみた方がいいよ？」

追記：彼は極度のお姉さん大好き。つまりシスコン。
将来の夢は姉さまの婿。

「法的に無理。」

「なぜだ？」

「いやいや、寧ろそこを疑問形で返される辺りを更に疑問形で返したいわ。」

こんな感じがいつもの二人である。
さて、後2人主要キャラがいるのではあるが、この家の中には今現在いないので場所と同時に話しを一度区切るとしよう。

「待て。その前にひとつだけ言わせる。」

はい、なんでもござましょか？

「現在進行形で我が家の庭を横断中のその黒猫。」

そう言いながら彼が視線を向けた際には確かに黒猫が庭の真ん中を悠々と横断している真つ最中だった。

その視線に猫の方は漫画やアニメでよくあるビクリとした後前足と後ろ足をそれぞれ片方ずつ上げた状態で制止している。

正直あの耐性すつごく辛そうだなね。

「でたわね……………」

この子の悪い病気が。」

説明すると彼は極度なまでの猫大好き症候群なのである。

姉の次に好きな生き物は猫。

猫はそこにいるだけで正義であり仕事なのだと明言している。

「当然だ。お猫様を越すことができる存在は姉さま以外に考えられん。」

だが……………」

前半は力を込めて猫を指さしながら言いきった彼ではあったが、そのあとはやけに真剣な顔で猫を見据えている。そして一時の静寂が辺りを支配し……………」

「お前、普通の猫じゃないな？」

……………続く。

夢は寝てみた方がいいよ？（後書き）

信彦「おい。」

雛「ん？何？」

信彦「なんだこの中途半端な終わり方は？」

雛「だって仕方ないと思うよ？」

主要メインキャラクター4人のうち2人しか紹介してないのに話を進展させる訳にはいかないっしょ？」

信彦「だがこれでは俺がいきなり頭がおかしくなった奴のような扱いじゃないか。」

雛「間違ってないだろ。」

撫子「それは作者に同意。」

信彦「姉さままで!？」

雛「では、次回予告。」

【次回予告】

自宅で2人の紹介が行われていた頃、
同地区内に点在する高校、【白川学園】では……大きな存在が
動きだしていた。

次回、新たなる脅威襲来。

信彦「何かちがくね？」

撫子「ごめん信彦。あんた以上にあんたを作ったこれがこんなんだっ
た。」

雛「なんだその痛い子を見る目は!？」

例えるならそう、店頭用のデモムービーに無茶苦茶力入れてて客を
期待させておきながら、発売していざプレイしたらクソゲーだった
ゲームを見るような目で見るのは

Y A M E R O ! ! !

信彦、撫子「実際そうだろ。」

雛「……………私のLPは0になりました。

では……………次回ノシ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3911ba/>

風ノ色

2012年1月12日09時48分発行